教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 教育学科　　資格： 教授　　氏名： 小尾　麻希子

研究分野	研究内容のキーワード
幼児教育学，保育学	保育実践研究，幼稚園教育実践史，保育カリキュラム史，保育者の専門性
学位	**最終学歴**
修士（学術）	神戸大学大学院総合人間科学研究科博士前期課程修了 神戸大学大学院人間発達環境学研究科博士課程後期課程在学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.「学びの記録」の作成と学びの振り返りを位置づけた授業の構築	2020年4月～現在	「保育内容総論」や「保育内容・表現Ⅱ」等の内容論の授業においては、毎回の授業内容の要約と気付きを書き記す「学びの記録」の作成を授業課題として位置づけている。「学びの記録」は毎回の学習内容のポイントを押さえて要約する力の形成や学習の振り返りに役立つため、学びの定着を図る上で有効な実践となっている。
2.「ポートフォリオ」の作成と学びの振り返りを位置づけた授業の構築	2020年4月～現在	毎回の授業において記述したノートやプリント類、取り組んだ課題、「学びの記録」等を綴った「ポートフォリオ」を学生自らで作成することを授業の一環として位置づけている。作成した「ポートフォリオ」は、学生自らが学びを振ったり、学習の成果を学生間で共有し合ったりする際に役立つため、学習意欲の向上や課題の明確化を図る上で有効な資料となっている。
3.ワークシート・自己評価シートを活用した保育観察と観察記録作成指導	2019年4月～現在	幼児の学びの過程に着目した保育観察とその記録を作成する際の観点を明確化した「保育観察記録用ワークシート」および「保育観察用自己評価シート」を開発した。この2つのシートは保育観察を伴う「教育実習事前事後指導Ⅰ（幼小）」「教育演習」等において活用するとともに、授業実践に基づいて毎年改訂している。
4.ワークシート・自己評価シートを活用した指導計画作成指導	2019年4月～現在	幼児の学びの過程を構築する際の視点を明確化した「指導計画作成用ワークシート」および「指導計画用自己評価シート」を開発した。指導計画作成を位置づけている「教育実習事前事後指導Ⅰ（幼小）」「教育演習」「保育内容・表現Ⅱ」等において活用するとともに、授業実践に基づいて毎年改訂している。
5.グループ学習を取り入れた課題探究型授業の構築	2014年4月～現在	各授業のねらいに基づいて、学習課題を設定し、その課題解決に向かう資料収集・討議・資料作成・発表を学生間の協働で行う等、グループ学習を取り入れた課題探究型授業を構築している。
6.総合的な遊びの構想から指導計画の立案、模擬保育の実施、その実践の振り返りに至るまでの連続的な学習過程の構築	2014年4月～現在	特に「保育内容・表現Ⅱ」「教育演習」等、保育内容の指導法に関する授業においては、長期指導計画のねらいに基づく総合的な遊びの構想から、教材研究・教材作成・短期指導計画作成・模擬保育の実施とその振り返りに至るまでの連続的な学習過程を構築し、学生の保育構想力や実践力を育成している。
7.フィールドにおける観察調査からの学習と、調査結果に基づく資料作成・研究協力園へのフィードバック	2014年4月～現在	「学級担任論（幼）」「教育実習事前事後指導Ⅰ（幼小）」「教育演習」等においては、附属幼稚園や公立幼稚園・保育所での保育観察を通して、幼児の遊びや保育者の役割について学びを深める機会を積極的に設けている。観察記録に基づいて討議し、考察した学習成果は資料にまとめ、観察協力園の園長・教員にフィードバックし、助言を得て、次の学習へと繋げている。
8.保育実践に関する映像や写真等の視聴覚教材を活用した学習過程の構築	2014年4月～現在	特に「保育内容総論」「保育内容・表現Ⅱ」等においては、保育実践に関する映像や写真等の視聴覚教材を

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		効果的に活用し、保育のねらい達成に向かって構築される子どもの遊びや生活、環境の構成や援助・指導方法等について具体的に解説している。
2 作成した教科書、教材		
1.教科書：幼児教育・保育方法論	2024年11月	文部科学省が示す「教育課程コアカリキュラム」に準拠し、これからの社会を担う子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用に関する基礎的な知識・技能について解説した教科書である。第8章第3節「4・５歳児の発達をふまえた援助とは」、第11章4節「日常の遊びと行事の在り方とは」について、事例を提示しつつ解説した。 編著者：開仁志 執筆者：旭彩希・伊野恵子・小尾麻希子他18名 （教育情報出版発行，全185頁，第8章第3節112-113頁・第11章4節147-148頁執筆）
2.授業教材開発：保育者養成校におけるカリキュラム・マネジメントの知識および意欲の育成のための教材開発　（JSPS科研費JP19K02580による助成を受けた研究）	2023年7月	本教材は、幼稚園の教職課程および保育士養成課程の学生を対象に、カリキュラム・マネジメントの知識・意欲を育成することを目的として開発したものであり、音声付き動画ファイル・PDFファイルから成る。動画にはカリキュラム・マネジメントの定義・目的・実際に関する解説、資料、演習問題を、PDFには演習問題と資料を掲載した。現在は本教材の効果検証に基づいて改善を行っている段階である。 作成者：若山育代・入江良英・後田紀子・小尾麻希子・桐川敦子・佐藤有香・新家智子・目良秋子・若尾良徳
3.学級経営実践事例集Ⅱ－エピソード記録に基づいて－	2023年7月	2023年度「学級担任論（幼）」の授業成果として作成した学級経営実践事例集。受講学生の記した学級経営に関する「エピソード記録」（保育実習等において捉えたもの）の中から、子どもの人間関係や集団としての育ちを育成する事例を取り上げ、筆者による解説を付して編集した。（全20頁）
4.学級経営実践事例集Ⅰ－子どもの心を育む・人間関係づくり・集団としての育ち－	2022年7月	2022年度「学級担任論（幼）」の授業成果として作成した学級経営実践事例集。受講学生の記した学級経営に関するレポート（保育実習等において捉えたもの）の中から、「子どもの心を育む・人間関係づくり・集団としての育ち」と深く関わる事例を取り上げ、筆者による解説を付して編集した。（全36頁）
5.デジタル教科書：シリーズ 保育実践につなぐ『保育内容総論』	2022年3月	『シリーズ 保育実践につなぐ「保育内容総論」』を、保育者養成校のWeb授業において活用可能なデジタル教科書として編集したものである。第3章「5領域と保育内容」を執筆。執筆内容の詳細は下記の紙媒体の教科書の概要に記載。 編著者：小川圭子・日坂歩都恵・小林みどり 執筆者：赤木公子・小川圭子・小尾麻希子他12名 （株式会社みらい発行，全200頁，第3章21-30頁執筆）
6.教科書：シリーズ 保育実践につなぐ『保育内容総論』	2021年9月	事例を通して、保育内容考え方やその実践に関する理解を深めることができるように編集された教科書。第3章「5領域と保育内容」を執筆。幼稚園教育要領等に示された5領域の考え方や、各領域に示された「ねらい」および「内容」の側面を踏まえ、第1節では「5領域と保育内容に関する基本的事項」、第2節では「3歳未満児の保育内容」、第3節では「3歳以上児における保育内容」について、事例を提示しつつ解説した。 編著者：小川圭子・日坂歩都恵・小林みどり 執筆者：赤木公子・小川圭子・小尾麻希子他12名 （株式会社みらい発行，全200頁，第3章21-30頁執筆）
7.幼児教育指導計画集Ⅲ－絵本を活用した造形遊びの創造－	2019年7月	2019年度「教育・保育課程総論」の授業において受講学生が構想・作成した指導計画と教員による解説を収

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
		録した指導計画集である。造形遊びへと深めていく絵本について調査し、教材研究及び教材作成を経て立案した指導計画として、当該授業受講学生の他の授業においても活用している。
8.「保育観察記録用ワークシート」「保育観察用自己評価シート」（3～5歳児版）」の作成と改訂	2019年4月～現在	幼児の学びの過程に着目した保育観察とその記録を作成する際の観点を明確化した「保育観察記録用ワークシート」および「保育観察用自己評価シート」を開発した。この2つのシートは保育観察を伴う「教育実習事前事後指導Ⅰ（幼小）」「教育演習」等において活用するとともに、授業実践に基づいて毎年改訂している。
9.「指導計画作成用ワークシート」「指導計画作成用自己評価シート」（3～5歳児版）の作成と改訂	2019年4月～現在	幼児の学びの過程を構築する際の視点を明確化した「指導計画作成用ワークシート」および「指導計画用自己評価シート」を開発した。指導計画作成を位置づけている「教育実習事前事後指導Ⅰ（幼小）」「教育演習」「保育内容・表現Ⅱ」等において活用するとともに、授業実践に基づいて毎年改訂している。
10.幼児教育指導計画集Ⅱ－深い学びの過程を実現する保育展開－	2019年2月	2018年度「幼児教育実践演習」の授業において受講学生が構想・作成した指導計画と教員による解説を収録した指導計画集である。深い学びの過程を実現する保育展開について学習し、学生の協働によって構想を練り、作成した指導計画として他の授業や幼稚園教育実習指導においても活用している。
11.教科書：演習形式でわかりやすく学ぶ「幼稚園教育要領」の要点－平成29年3月告示「幼稚園教育要領」準拠－	2018年3月	改訂された「幼稚園教育要領」の要点及びその要点に関連する演習問題を掲げて、養成校の授業における参考書として有効に活用されるように構成した教科書。「幼稚園教育要領」の役割、「幼稚園教育要領」等の変遷、平成29年3月告示「幼稚園教育要領」改訂の基本方針と改訂の背景、「幼稚園教育要領」に示された幼稚園教育の基本、幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、各領域に示された「ねらい及び内容」の考え方及び教育内容の改善・充実の方向性について執筆した。（一藝社発行 単著 全54頁、2023年7月に第3刷発行）
12.幼児教育指導計画集Ⅰ	2017年8月	2017年度「学級担任論（幼）」の授業において受講学生が構想・作成した指導計画と教員による解説を収録した指導計画集。幼児一人一人のイメージを協同的な遊びへと深める保育について学習し、学生の協働によって構想を練り、作成した指導計画として、他の授業や幼稚園教育実習指導においても活用している。
13.兵庫教育大学教材文化資料館「3歳児保育指導案」	2007年3月	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園3歳児学級担任時に作成・実践した指導案2編を兵庫教育大学教材文化資料館にて所蔵・公開している。
14.平成18年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」	2007年3月	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著した。3歳児の年間指導計画、月別指導計画（4月～3月）、週指導計画1編を執筆した。園内研究はもとより、附属幼稚園教員による授業及び実地教育指導においても活用した。（兵庫教育大学附属幼稚園）
15.平成17年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」	2006年3月	平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児か5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著した。4歳児の年間指導計画、月別指導計画（4月～3月）、週指導計画1編を執筆した。園内研究はもとより、附属幼稚園教員による授業及び実地教育指導においても活用した。（兵庫教育大学附属幼稚園）
16.平成16年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」	2005年3月	平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著した。5歳児の年間指導計画、月別指導計画（4月～3月）、週指導計画1編を執筆した。園内研究はもとより、附属幼稚園教員による授業及び実地教育指導においても活用した。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
		（兵庫教育大学附属幼稚園）
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.高大連携授業	2025年2月6日	高大連携の一環として、武庫川女子大学附属高等学校2年生を対象とした授業（講義内容「“保育”という仕事の魅力－子どもと共に保育を創る愉しみ－」）
2.高大連携授業	2022年1月	高大連携の一環として、武庫川女子大学附属高等学校2年生を対象とした授業（Web授業）を実施（講義内容「幼児期の遊びと学び」）。
3.大阪府立豊中高等学校授業「課題研究」講師	2020年8月28日	大阪府立豊中高等学校からの依頼により、第2学年授業「課題研究」の講師を務め、「家庭内において、親子で触れ合いながら楽しめる遊び」について研究を進めている生徒4名への助言を行った。
4.高大連携授業	2016年9月（２回実施）	高大連携の一環として、武庫川女子大学附属高等学校3年生ELコース45名を対象とした授業を2回にわたって実施。保育実践事例や実践映像を提示しつつ、幼児期の遊びとその遊びの中で育まれていく幼児の学びについて講話した。
5.高等学校進路ガイダンスにおける職業人講話	2014年4月～現在（毎年1～2校訪問）	入試広報に繋がる取組として、高等学校1年生・2年生を対象とした進路ガイダンスにおいては、毎年、幼稚園での実務経験を生かして、幼児教育に関する職業人講話や学科説明等を行っている。 （訪問校：兵庫県立宝塚北高等学校（複数年継続訪問）・兵庫県立星陵高等学校・大阪府立北千里高等学校・大阪市立高等学校・大阪府立東住吉高等学校等）
6.オープンキャンパスにおける模擬授業	2014年4月～現在	オープンキャンパスにおいて、幼稚園等における保育実践に焦点を当てた模擬授業を実施（年間１～２回）。
7.高等学校見学受け入れにおける模擬授業	2014年4月～現在	入試広報に繋がる取組として、高等学校からの見学受け入れ時には、幼児教育に関する模擬授業を行っている。2024年度には、幼児教育分野への進学を希望している奈良女子高等学校の生徒を対象に、「遊びの中での学びと保育者の役割」と題し、模擬授業を行った。
8.授業外における学生支援：幼稚園教育実習・保育実習に係る学生支援	2014年4月～現在	幼稚園教育実習・保育実習履修に係る学生支援として、個別の支援が必要な場合や希望学生には、適宜面談の場を設け、状況に応じた助言や教材作成・指導計画作成等に関する支援を継続的に行っている。
9.授業外における学生支援：幼稚園教員・保育士採用選考試験に係る学生支援	2014年4月～現在	幼稚園教員・保育士採用試験に係る学生支援として、希望学生には、受験対策指導や2次試験に向けた面接・実技試験・模擬保育等に関する個別指導を継続的に行っている。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.幼稚園教諭専修免許状 2.小学校教諭専修免許状 3.幼稚園教諭一種免許状 4.小学校教諭一種免許状 5.保育士資格		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.国際幼児教育学会研究奨励賞	2023年9月23日	【受賞論文】1930年代の明石女子師範学校附属幼稚園における「生活單位ノ保育カリキュラム」開発過程 －「明石附属幼稚園プラン」の源流を探る－（『国際幼児教育研究』第29号57-72頁掲載論文） 【選考理由】「日本の幼児教育の経験カリキュラムに通じる系譜を明らかにし、史料の丁寧な読み取りを通

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		して、1930 年代の幼稚園のカリキュラム研究について新たな視点を提示。確かな先行研究の上に、歴史的資料を丁寧な分析によって知見を見出していること、当時の附属園における「生活単位ノ保育カリキュラム」の開発過程を明らかにし、その取り組みが歴史上先進的な取り組みであったことを証明する重要な論文となっている」ことが評価された。
4 その他		
1.三田市立三田幼稚園園内研究会講師	2024年11月7日	研究保育参観、研究協議、指導助言
2.宝塚市立宝塚幼稚園園内研究会講師	2024年9月25日	研究保育参観、研究協議、指導助言
3.宝塚市立宝塚幼稚園園内研究会講師	2023年11月6日	研究保育参観後、研究主題「やりぬく力を育む環境構成と教師の援助」のもと、実践に基づく研究協議と指導助言を行った。
4.神戸市立保育所保育士会研修会講師	2023年8月25日	主催：神戸市立保育所保育士会（於：神戸市立婦人会館） 神戸市立保育所保育士約80名を対象とした研修会講師。6月に実施した「神戸研究集会」における講話を基礎に、本研修会では、(1)保育の質の維持・向上に向けた保育の計画と記録、(2)記録に基づく計画と実践の改善、(3)保育所全体での組織的・計画的なカリキュラム・マネジメントの具体的方法等、カリキュラム・マネジメントに光を当て、その具体例を提示しつつ講話した。
5.神戸市保育園連盟「神戸研究集会」講師	2023年6月12日	主催：神戸市立保育園連盟（於：兵庫県民会館けんみんホール） 神戸市内公立・私立保育所等の保育者約250名を対象とした研究集会の講師。神戸市立保育士会による研究発表（研究主題「保育の営みをいかに社会に発信するか」）を受け、社会に発信するために必要となる保育ドキュメンテーションの作成方法、その記録に基づく保育の振り返りや所内研究の進め方について講話した。
6.神戸市立保育所保育士会テーマ委員会講師	2023年2月7日	主催：神戸市立保育所保育士会（於：神戸市立婦人会館） 神戸市立保育所の主任保育士等で構成される「テーマ委員会」の講師。2023年6月の「神戸研究集会」で行う研究発表「保育の営みをいかに発信させるか」についての研究協議と助言を行った。
7.宝塚市教育委員会指定研究「保育研究発表会」講師	2022年11月22日	主催：宝塚市教育委員会（於：宝塚市立宝塚幼稚園） 宝塚市内公立・私立の幼稚園・認定こども園等の保育者約100名を対象とした保育研究会の講師。公開保育参観後、宝塚市立宝塚幼稚園による研究発表「あきらめずにやり抜く心を育む」を受けた研究協議会での指導助言と講話を行った。
8.宝塚市立末成幼稚園園内研究会講師	2022年11月1日	保育参観後、研究主題「自分で考え行動する幼児の育成を目指す保育実践」のもと、実践に基づく研究協議と指導助言を行った。
9.神戸市立保育所との共同研究・保育者養成に係る連携	2021年4月～現在	神戸市立保育所の研究活動に参画し、保育所の日々の実践に還っていく研究討議や資料作成を共同で推進。研究の成果は学部紀要において発表している（後掲「研究業績に関する事項」に詳述）。2021～ 2023年度は神戸市立葺合保育所と連携を図り、保育の営みを可視化させる保育の記録と研修での活用方法について研究した。2024年度からは神戸市立ふたば保育所と連携を図り、遊びの持続・継続を誘う環境づくりと保育者の援助について研究を進めている。また、2024年度からは、「教育演習」における学生の保育観察や観察後の質疑応答等、保育者養成に係る協力も得ている。
10.2021年度・2022年度宝塚市教育委員会指定研究 宝塚市立宝塚幼稚園園内研究会講師（年間6回）	2021年4月～2023年3月	宝塚市教育委員会の指定を受けた園内研究会講師。研究主題を「あきらめずにやり抜く心を育む」として推

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
11.宝塚市立宝塚幼稚園園内研究会講師	2021年1月18日	進する2021年度から2年間にわたって、宝塚幼稚園園内研究に継続的に関わった。毎回の研究会では、研究保育参観と実践に基づく研究協議を重ねつつ、園内研究の成果と課題、研究成果の検証方法、研究紀要の編集に関する指導助言も行った。 2021年4月～2023年3月保育参観後、研究主題「自分で考え行動する幼児の育成を目指す保育実践」のもと、実践に基づく研究協議と指導助言を行った。
12.三田市立松が丘幼稚園園内研究会講師	2019年10月7日	研究保育参観、研究協議、指導助言「幼児の主体的な学び・環境構成・教師の援助・指導計画」
13.川西市立幼稚園教育研究会講師	2019年1月21日	主催：川西市教育委員会・川西市立幼稚園長会 研究保育参観、指導助言「幼児の学びの過程と環境構成・教師の援助・指導計画③」 （於：川西市立川西北幼稚園）
14.川西市立川西北幼稚園園内研究会講師	2018年12月10日	研究保育参観、研究協議、指導助言「幼児の学びの過程・環境構成・教師の援助・指導計画②」
15.川西市立川西北幼稚園園内研究会講師	2018年11月12日	研究保育参観、研究協議、指導助言「幼児の学びの過程・環境構成・教師の援助・指導計画①」
16.三重県四日市市立幼稚園幼児教育研究会（北部ブロック）講師	2018年10月12日	主催：四日市市立幼稚園長会・四日市市立幼稚園幼児教育研究会 講話「幼児教育における主体的・対話的で深い学びとは－保育の原点に立ち返って考える－」 （於：四日市市立保々幼稚園）
17.三田市立松が丘幼稚園園内研究会講師	2018年10月8日	研究保育参観、研究協議、指導助言「協同する経験・環境構成・教師の援助・指導計画」
18.川西市立幼稚園教育研究会講師	2018年8月28日	主催：川西市教育委員会・川西市立幼稚園長会 指導助言「研究主題に基づいたエピソード記録の書き方・分析方法、実践を深めるための具体的方法」 （於：川西市立川西幼稚園）
19.川西市立幼稚園教育研究会講師	2018年7月23日	主催：川西市教育委員会・川西市立幼稚園長会 指導助言「研究主題の設定及び各幼稚園における園内研究の進め方」 講話「子どもの育ちと学びの過程を可視化させる実践・研究へのアプローチ」 （於：川西市立川西幼稚園）
20.平成29年度関西幼稚園・こども園連合会教育研究大会（奈良大会）講師	2017年11月18日	主催：関西幼稚園・こども園連合会教育研究会 大会テーマ：「未来に向かって育ちをつなぐ幼児教育－遊びの豊かさを求めて－」 全体会指導助言（大和郡山市立郡山南幼稚園からの提案・貝塚市立木島西幼稚園及び西宮市立用海幼稚園の研究発表を受けて） （於：やまと郡山城ホール）
21.武庫川女子大学附属幼稚園の研究活動への参画と協力	2017年8月～現在	附属幼稚園の研究活動に参画し、教育課程の編成にも継続的に関わっている。研究成果は「武庫川女子大学附属幼稚園研究紀要」として刊行（後掲「研究業績に関する事項」に詳述）。
22.文部科学省指定研究開発「幼稚園における親育てプログラムとその評価システムに関する研究開発」	2006年4月～2007年3月	文部科学省研究開発指定校として、幼稚園における「親育てプログラム」及びその「評価システム」を開発し、実践化させた。保護者の保育参加・子育て講演会・子育て相談等から、同プログラムを構成。その評価システムとして、保護者の子育て意識の変容を捉える指標を作成した。研究の成果は、文部科学省研究開発実施報告書「親育てプログラムとその評価システムの開発による幼稚園の教育課程及び地域子育てに関する開発研究」としてまとめ、文部科学省へ提出した。 （兵庫教育大学附属幼稚園）2006年4月～2007年3月
23.文部科学省海外派遣「国際的な視野・識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修（派遣先：フィンランド・スウェーデン）」	2005年11月	文部科学省海外派遣研修において、フィンランド・スウェーデンの就学前教育や初・中・高等教育・特別支援教育の実情を視察。視察内容に基づいて研究報告書を作成し、文部科学省へ提出した。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
24.文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会研究発表	2004年11月	平成16年度文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会において兵庫県代表として研究発表を行った。協議主題C「感じたこと、考えたことを音や動きで表現したり、自由にかいたりつくったりする物的・空間的環境の構成」について発表。この発表の要旨は文部科学省編「平成16年度 教育課程協議会研究成果の要旨集」の124-125頁に掲載されている。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.教科書：幼児教育・保育方法論（再掲）	共	2025年1月	教育情報出版	概要は「作成した教科書・教材」に記載のため省略。 編著者：開仁志 執筆者：旭彩希・伊野恵子・小尾麻希子他18名 （全185頁，第8章第3節「4・５歳児の発達をふまえた援助とは」112-113頁・第11章4節「日常の遊びと行事の在り方とは」147-148頁執筆
2.現代保育内容研究シリーズ『保育・教育の実践研究』	共	2023年2月	一藝社	子供を取り巻く現代社会の問題に目を向け、保育の質の維持・向上に向かう取組・課題・展望について論じた保育専門書である。「第２章 質の高い保育・幼児教育実践の探究」を執筆。保育・幼児教育の質をめぐる今日的課題、保育の質を捉える視点、実践事例、質の高い保育・幼児教育実践の展望について論じた。 編者：現代保育問題研究会（代表 谷田貝公昭） 執筆者：稲木真司・歌川光一・小尾麻希子他8名 （全146頁,第2章「質の高い保育保育・幼児教育実践の探究」21-31頁執筆）
3.デジタル教科書：シリーズ 保育実践につなぐ『保育内容総論』（再掲）	共	2022年3月	株式会社 みらい	概要は「作成した教科書・教材」に記載のため省略。 編著者：小川圭子・日坂歩都恵・小林みどり 執筆者：赤木公子・小川圭子・小尾麻希子・柏まり他11名 （全200頁，第3章「5領域と保育内容」21-30頁執筆）
4.シリーズ 保育実践につなぐ『保育内容総論』 （再掲）	共	2021年9月	株式会社 みらい	概要は「作成した教科書・教材」に記載のため省略。 編著者：小川圭子・日坂歩都恵・小林みどり 執筆者：赤木公子・小川圭子・小尾麻希子・柏まり他11名 （全200頁，第3章「5領域と保育内容」21-30頁執筆）
5.インターネットではわからない子育ての正解（幼児編）	共	2021年8月	一藝社	幼児期の子育てにあたる保護者支援をねらいとして、幼児期の子育てに役立つ事項を1頁ごとに簡潔に解説した事典。担当箇所は、気になる子どもの特徴（3項目）・社会性に関する項目（1項目）・言葉に関する項目（2項目）・基本的生活習慣に関する項目（3項目）、計9項目（9頁）である。 監修：谷田貝公昭、編著者：高橋弥生・大沢裕 執筆者：石井恵子・糸井志津乃・岩城淳子・大賀恵子・大崎利紀子・小尾麻希子他20名 （全200項目,気になる子どもの特徴等9項目執筆）
6.表現者を育てるための保育内容「音楽表現」－音遊びから音楽表現へ－	共	2020年3月	教育情報出版	「幼稚園教育要領」等に示された領域「表現」の考え方と音楽的表現の指導方法について述べた文献である。第1章 第2節「領域「表現」のねらいと内容」、第3節「他領域との関連を考える」を執筆。領域「表現」のねらいと内容、他領域との関連について、筆者の実践した事例を提示しつつ解説した。 編著者：石井玲子 執筆者：石井玲子・板野晴子・伊原木幸馬・今井由恵・植田恵理子・内山尚美・小尾麻希子他43名 （全166頁 第1章 第2節「領域「表現」のねらいと内容」、第3節「他領域との関連を考える」3-6頁執筆）
7.改訂新版 保育用語辞典	共	2019年3月	一藝社	幼児教育・保育に関して理解しておきたい伝統的な用語はもとより、新しく告示された・制度の改正を踏まえた新しい用語まで、保育者のための基本用語を収録した辞典である。筆者の担当箇所は領域「言葉」である。「幼稚園教育要領」等に示されている言葉の獲得に関する領域「言葉」について解説した。 編集委員代表：谷田貝公昭　共著者多数のため記載不可能 （全482

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				頁 「言葉（領域）」の項目147頁執筆）
8.現代保育内容研究シリーズ『保育をめぐる諸問題Ⅱ』	共	2019年2月	一藝社	子供を取り巻く現代社会の問題に目を向け、保育の質の維持・向上に向かう取組・課題・展望について論じた保育専門書である。第6章「主体的・対話的で深い学びを育む保育実践の探究」を執筆した。「主体的・対話的で深い学び」が提言された背景と学びの過程を捉える視点、深い学びを創出する保育実践の過程と教師の役割について論じた。 編者：現代保育問題研究会 執筆者：小尾麻希子・齋藤恵子・佐久間美智雄・中尾泰斗・西田希・橋本樹・谷田貝円 （全138頁 第6章「主体的・対話的で深い学びを育む保育実践の探究」77-89頁執筆）
9.新版 保育者論（平成29年3月告示「幼稚園教育要領」等準拠）	共	2018年3月	一藝社	保育者としての資質や専門性、保育者の歴史、保育者の研修・服務、保育者と法令等について述べた文献である。第10章「現代における望ましい保育者像」を執筆した。保育者として必要な資質・幼児理解・保育を創造する力・遊びを総合的に指導する実践力・保育を省察力について論じた。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成　編著者：谷田貝公昭 執筆者：谷田貝公昭・新山裕之・小尾麻希子・金眞紀子・工藤ゆかり・齋藤崇他8名 （全155頁 第10章「現代における望ましい保育者像」94-102頁執筆）
10.新版 保育内容総論（平成29年3月告示「幼稚園教育要領」等準拠）	共	2018年3月	一藝社	保育内容の基本的な考え方や保育内容の歴史、幼児の発達と保育内容、個と集団の育ちを見据えた保育内容、保育者が指導する事項等について述べた文献である。第13章「5歳児の保育内容」を執筆。5歳児の運動的側面・言葉及び思考力・人間関係の発達を提示しつつ、その発達の特性に応じた保育内容とその実際について論じた。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成　編著者：大沢裕・高橋弥生 執筆者：高橋弥生・大沢裕・石山ゐづ美・五十嵐紗織・大槻千秋・小尾麻希子他9名 （全146頁 第13章「5歳児の保育内容」117-125頁執筆）
11.演習形式でわかりやすく学ぶ「幼稚園教育要領」の要点－平成29年3月告示「幼稚園教育要領」準拠－（再掲）	単	2018年3月	一藝社	改訂された「幼稚園教育要領」の要点及びその要点に関連する演習問題を掲げて、養成校の授業における参考書として有効に活用されるように構成したものである。「幼稚園教育要領」の役割、「幼稚園教育要領」等の変遷、平成29年3月告示「幼稚園教育要領」改訂の基本方針と改訂の背景、「幼稚園教育要領」に示された幼稚園教育の基本、幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、各領域に示された「ねらい及び内容」の考え方及び教育内容の改善・充実の方向性について執筆した。（全54頁）
12.新版 教育・保育課程論（平成29年3月告示「幼稚園教育要領」等準拠）	共	2018年3月	一藝社	幼稚園や認定こども園等における教育課程・指導計画作成の意義や作成にあたっての基本的な考え方、保育の質を高める計画と評価等について記した文献である。第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」を執筆した。幼稚園において教育課程を編成する際の原則と作成上の留意点、教育課程の実際、指導計画の実際と作成方法等について述べた。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成　編著者：大沢裕・高橋弥生 執筆者：高橋弥生・大沢裕・小尾麻希子・岸優子・澤田裕之・田村佳世他9名 （全146頁 第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」45-53頁執筆）
13.現代保育内容研究シリーズ『現代保育論』	共	2017年11月	一藝社	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の改訂内容を踏まえ、現代保育の諸問題を保育者の専門性・カリキュラム・保育内容と教材・諸外国の事例等から、保育実践の本来のあり方を追求した保育専門書である。第6章「実践の場で活用できる保育教材研究」を執筆。領域「環境」のねらい及び内容に焦点を当てた保育教材とその保育教材を活用した幼児の協同的な遊びを事例として、現代保育に求められる保育内容と保育教材について論じた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
14.コンパクト版保育者養成シリーズ『教育・保育課程論』	共	2017年3月	一藝社	編者：現代保育問題研究会 執筆者：大倉眞壽美・小尾麻希子・小山貴博・佐久間美智雄・杉山喜美恵他5名（全144頁 第6章「実践の場で活用できる保育教材研究」62-71頁執筆） 幼稚園・保育所・児童福祉施設における教育課程・保育課程・指導計画の意義・作成方法・作成するにあたっての留意点などについて論じた文献である。第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」を執筆。「幼稚園教育要領」と教育課程の関係性、指導計画の意義、指導計画の実際と作成上の留意点に焦点を当てて論じた。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成　編著者：高橋弥生・大沢裕 執筆者：高橋弥生・大沢裕・小尾麻希子・岸優子・澤田裕之・田村佳世他9名 （全146頁 第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」45-53頁執筆）
15.コンパクト版保育者養成シリーズ『保育内容総論』	共	2017年2月	一藝社	幼稚園・保育所における保育内容の歴史、保育内容を考える視点とその評価、乳幼児の発達に応じた保育内容など、保育内容全般について解説した文献である。第13章「5歳児の保育内容」を執筆した。5歳児の生活と保育内容との関係性、運動的側面・言葉及び思考力の芽生え・人間関係発達の側面と保育内容との関係性より、5歳児にふさわしい保育内容について論じた。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成　編著者：高橋弥生・大沢裕 執筆者：高橋弥生・大沢裕・石山ゐづ美・五十嵐紗織・大槻千秋・小尾麻希子他9名 （全146頁 第13章「5歳児の保育内容」117-125頁執筆）
16.コンパクト版保育者養成シリーズ『保育者論』	共	2016年3月	一藝社	保育者の制度的な位置づけ、倫理感、役割と専門性、協働と専門職的成長について述べた文献である。第10章「現代における望ましい保育者像」を執筆した。「幼稚園教育要領」に示されている保育者像、筆者によるアンケート調査結果より得られた経験年数・立場によって相違する「望ましい保育者像」及び保育者の専門職的成長プロセスについて論じた。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成　編著者：谷田貝公昭 執筆者：谷田貝公昭・新山裕之・小尾麻希子・金眞紀子・工藤ゆかり・齋藤崇他8名 （全155頁 第10章「現代における望ましい保育者像」94-102頁執筆）
17.教育学科への招待	共	2015年4月	武庫川女子大学出版部	PARTⅡ保育・幼児教育・社会福祉・特別支援、01「幼児教育の原点」を執筆した。日本において最初に設立された東京女子師範学校附属幼稚園の創立から昭和初期にかけての保育内容と、主事を務めた倉橋惣三の保育論を取り上げ、現代の幼児教育の原点となった実践と理論について述べた。監修：武庫川女子大学文学部教育学科 （44-47頁「幼児教育の原点」を執筆）
18.MINERVA保育実践講座第16巻『子育て支援の理論と実践』	共	2013年1月	ミネルヴァ書房	子育て支援の理念及び目的、歴史文化的諸相、幼稚園・保育所・子育て支援センター・地域における子育て支援の取り組み、子育て支援の効果及び課題、子育て支援の展望について著した文献である。第3章第1節幼稚園における「子育て支援」の概要を執筆。幼稚園における子育て支援の目的・方法・具体的事例について述べた。 編者：子育て支援プロジェクト研究会 執筆者：名須川知子・清水憲志・佐藤哲也・小尾麻希子・岸本美保子・谷石宏子・高橋一枝・上月康代・山田有紀子・寺村ゆかの・横川和章・小川圭子・楠本洋子・田中幸胤 （全176頁 第3章第1節 幼稚園における「子育て支援」の概要29-33頁執筆）
2 学位論文				
3 学術論文				
1.1950年代の神戸大学教育学部附属幼稚園における「明石附幼プラン」の改革過程	単	2025年8月	『保育学研究』 第63巻第1号 79-90頁 日本保育学会	本研究の目的は、1950年代の神戸大学教育学部附属幼稚園において推進された「明石附幼プラン」の改革過程を、当時に作成された研究・実践資料の検討を通して明らかにすることにある。 （JSPS科研費JP24K05853による助成を受けた研究）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
－「一人一人を生かす」カリキュラム構成の検討を中心に－（査読付）				
2.保育者養成課程におけるカリキュラム・マネジメント教材効果－学生の意欲向上に与える影響－（査読付）	共	2025年3月	『乳幼児教育・保育者養成研究』第５号 75-86頁 乳幼児教育・保育者養成学会	本研究では、カリキュラム・マネジメントに対する学生の意欲を向上させる教材の効果を検証した。本研究で使用する教材は、メタ分析に基づく効果的な指導技術やカリキュラム・マネジメントの学習状況に関する学生の実態、カリキュラム・マネジメントに関する研究や学習意欲研究の知見、『幼稚園教育要領』等や中央教育審議会の行政文書を踏まえて作成されたものであった。教材で学ぶ実験群と学ばない対照群を設定して、教材がカリキュラム・マネジメントへの意欲に及ぼす効果を検証した。 若山育代・入江良英・後田紀子・小尾麻希子・桐川敦子・佐藤有香・新家智子・目良秋子・若尾良徳 （JSPS科研費JP19K02580による助成を受けた研究）
3.保育者養成課程におけるカリキュラム・マネジメントの知識および意欲の育成のための教材開発（査読付）	共	2024年10月	『富山大学教育学部紀要』第3巻第1号 31-42頁 富山大学教育学部	本研究の目的は、幼稚園の教職課程および保育士養成課程において、学生にカリキュラム・マネジメントの知識およびそれへの意欲を育成するための教材を開発することにある。その目的の一環として、本稿では、教材開発へと至った理論的背景と研究手法、教材内容、授業での活用方法について論じた。筆者らの開発した教材は、メタ分析の知見に基づき、音声付き動画ファイル・PDFファイルデータから構成したものである。いずれにおいても、PDCAサイクルを図式化させた資料と、解法付き例題を織り込み、問い・手段・回答という過程を経て学習を深めていくことができるように編纂した。 若山育代・入江良英・後田紀子・小尾麻希子・桐川敦子・佐藤有香・新家智子・目良秋子・若尾良徳 （JSPS科研費JP19K02580による助成を受けた研究）
4.保育の営みをいかに社会に発信するか －神戸市立葺合保育所の研究実践「人間ってすばらしい！！」を事例として－（査読付）	共	2024年3月	『教育学研究論集』第19号 35-42頁 武庫川女子大学教育学部	本研究の目的は、保育の営みを可視化させ、社会に発信するためのツールを考案・実践化させることにある。その一端として、本稿では神戸市立葺合保育所における保育の記録「人間ってすばらしい！！」を取り上げ、その記録の実際と、これを家庭へ継続的に発信したことの成果・課題を提示した。この記録では、「非認知能力」に焦点を当てて捉えた子どもの遊びを写真とともに提示し、その遊びの中に見られる育ちの過程、環境の構成、援助のポイントを記した。これを継続的に家庭へ発信した成果は、子どもの遊びの中に見えてくる育ちが「非認知能力」によって支えられていることや、その背景にある保育者の専門性を分かりやすく提示したことにある。今後の課題は、家庭を含めたより広い地域社会への発信方法について検討・実践化することにある。 小尾麻希子（第一著者）・井上朱美・廣利朱香
5.戦後初期の兵庫師範学校女子部附属幼稚園における保育カリキュラム改革－昭和23年7月発表「明石附幼プラン」の検討を中心に－（査読付）	単	2023年9月	『保育文化研究』第17号 129-143頁 日本保育文化学会	本研究の目的は、戦後初期の兵庫師範学校女子部附属幼稚園におけるカリキュラム改革の具体相を、その端緒となった昭和23年7月発表の「明石附幼プラン」に焦点を当てて明らかにすることにある。当時に作成された資料に基づいて検討した結果は次のとおりである。(1)コア・カリキュラムの考え方を導入しつつも、生活問題解決を中心とした小学校のコア・カリキュラムとは相違する考え方でつくられていたこと、(2)そのカリキュラムづくりの根底には、保育の実際と目標とを照らし合わせながら具体的な経験を構築していくという戦前の保育案の考え方や、談話や表現活動等を位置づけて、一つのまとまりある保育内容を構築しようとする日本の伝統的な保育文化が根差していたことである。このことから、「明石附幼プラン」の成り立ちを、戦前からの連続性を踏まえて再検討することの必要性を示唆した。 （JSPS科研費JP19K02580による助成を受けた研究）
6.武庫川女子大学附属幼稚園における研究実践報告 －保育実践の質を高め合う園内研究体制の確立を目	共	2023年3月	『教育学研究論集』第18号 70-77頁 武庫川女子大学教育学部	本研究の目的は、令和3年度の武庫川女子大学附属幼稚園における研究・実践の成果と課題について検討することにある。その結果は次のとおりである。研究・実践の成果は、(1)学級の枠を外した異年齢による遊びの構築と教師の協働、(2)幼児のイメージや思い、考えを出発点とした保育実践の構築、(3)言葉による伝え合いの充実と応答

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
指して－ （査読付）				的な人間関係の構築を推進させたことにある。今後の課題としては、(1)幼児一人一人の思いや考えに基づいた環境構成・援助を確実化させ得る保育体制の確立と教師の協働性の向上、(2)好きな遊びにおける活動と学級活動との連関を意図した保育内容を構築することが挙げられた。 小尾麻希子（第一著者）・金光文代・廣崎有美・ 淺川遥・川村美悠・塩井敬子・ 豊田恭子・西村幸子・藤川雄太・ 遠藤晶・神原一之・ 久米裕紀子・中井光司・ 西本望
7.「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用したドキュメンテーション作成の試み －神戸市立葺合保育所における研究実践－ （査読付）	共	2023年3月	『教育学研究論集』第18号 78-85頁 武庫川女子大学教育学部	本研究の目的は、保育の過程と子どもの育ちの可視化・共有化させる保育の記録方法と活用方法について検討し、実践化させることにある。その一環として、本稿では、神戸市立葺合保育所3歳児クラス担任保育者の作成した保育の記録（ドキュメンテーション）を取り上げ、記録の実際と活用方法、その記録を活用した所内研究の成果と課題について提示した。その成果は、(1)保育者自らの保育の振り返りに活用し、子どもの育ちの過程とそれに即した保育の方向性を明確化させたこと、(2)所内研究会の基礎資料として活用し、必要となる環境の構成や保育者の援助について保育者間で具体的に検討し、共有化させたことにある。今後の課題は、記録に基づく所内研究を通して、カリキュラム・マネジメントをより一層充実させていくことにある。 小尾麻希子（第一著者）・井上朱美・山本真菜
8.1930年代の明石女子師範学校附属幼稚園における 「生活單位ノ保育カリキュラム」開発過程 －「明石附属幼稚園プラン」の源流を探る－ （査読付） （研究奨励賞受賞） Development Process of the “Life Unit Curriculum for the Kindergarten” at the Akashi Women’s Normal School Kindergarten in the 1930s: Exploring the Origins of the “Akashi Plan for the Kindergarten”	単	2022年9月	『国際幼児教育研究』第29号 57-72頁 国際幼児教育学会 International Journal of Early Childhood Education Vol.29 International Association of Early Childhood Education	本研究の目的は、1930年代の明石女子師範学校附属幼稚園における「生活単位ノ保育カリキュラム」の開発過程を、及川平治主事の提示したカリキュラム改造論および当時の保姆によって作成された研究資料に基づいて明らかにすることにある。研究の結果は次のとおりある。及川の提示した教育測定学の研究を起点としたカリキュラム改革は、(1)各種の測定法や評価基準の整備とその実施、(2)社会的場面において形成すべき望ましい習慣を、行動として具体的に観察・測定可能な形で表した保育案の研究、(3)科学的な調査による「子どもの事実」に基づく生活単位案の組織から、個人差に応ずる遊びの研究に至るまでの「生活全体の指導課程」の編成、(4)望ましき活動への変化としての知識・感情・習慣・態度を記した「生活単位ノ保育カリキュラム」の編成、という手続きを採って推進されたことである。以上のことは、同保育カリキュラムが、哲学的・形而上学的な子どもの理解から脱却し、科学的な研究によって捉えた子どもの自然な姿から教育を探究していこうとする国際的な潮流の中に生み出された、わが国における進歩主義幼稚園カリキュラムの先駆事例であったことを実証するものである。 （JSPS科研費JP19K02635による助成を受けた研究）
9.1950年代のお茶の水女子大学附属幼稚園において推進された教育計画研究の特質とその歴史的意義 （査読付） The Features and Historical Significance of Advances Made in Educational Planning Research at the Kindergarten Attached to	単	2021年9月	『国際幼児教育研究』第28号 51-66頁 国際幼児教育学会 International Journal of Early Childhood Education Vol.28 International Association of Early Childhood Education	本研究の目的は、1950年代のお茶の水女子大学附属幼稚園において推進された教育計画研究の特質とその歴史的意義を、当時の同園で作成された著作や研究資料に基づいて明らかにすることにある。その結果は次のとおりである。(1)発達研究を基礎に、幼児期の発達の特性に即した指導方法を究明することを教育内容研究の出発点とした、(2)「子どもを理解する」ことを教育計画の極めて重要な部分とした、(3)実践記録に基づいて、幼児一人一人の興味や要求、育ちの過程への理解を深め、「実践記録を積む」ことを教育計画と実践の基礎とした、(4)教育計画と実践の向上へと向かう保育研究の方法を実践的・実証的に提示したことにある。その歴史的意義は、(1)幼児の遊びをよく観察し、伸びゆくところを見極め、その次の活動・経験に対する洞察をもちながら立案していくという「誘導保育」の趣旨を、発達研究を基礎とした戦後の教育計画・実践へと深化させたこと、(2)教育計画と保育実践の好循環を促すことを試みた保育研究の先駆事例であったことにある。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Ochanomizu University in the 1950s				（JSPS科研費JP19K02635による助成を受けた研究）
10.「保育要領」刊行後の徳島大学学芸学部附属幼稚園において推進された研究活動－単元「幼稚園の新しいおうち」の計画作成に至るまでを中心に－ （査読付）	単	2021年8月	『保育学研究』 第59巻第1号 7-20頁 日本保育学会	本研究の目的は、1954年の徳島大学学芸学部附属幼稚園において作成された単元「幼稚園の新しいおうち」の計画が、どのような研究活動上に創出されたものであったのかを、その当時の実践的資料に基づいて明らかにすることにある。その結果は次のとおりである。この単元計画は、(1)幼児の生活経験に着眼した発達調査を実施した、(2)調査結果に基づいて、5歳児にとっての「のぞましい能力」を選定し、保育内容の精選化を図った、(3)「のぞましい能力」を生活経験の範囲と発達の順序に沿って組織した「5才児の能力表」を作成し、系統的・組織的な保育内容を構築した研究の過程に創出されたものである。以上のことから、この単元の計画には、新園舎の建築という幼児を取り巻く生活環境とそこでの幼児の生活に立脚して構想された遊びの中に、「のぞましい能力」を組織的・系統的に位置づけていこうとする保育者の意図があったことが解明された。 （JSPS科研費JP19K02635による助成を受けた研究）
11.はじめての保育実習を控えた学生の不安と期待に関する研究 （査読付）	共	2021年3月	『教育学研究論集』第16号 18-26頁 武庫川女子大学大学院文学研究科教育学専攻	本研究は、保育実習に対する学生の不安と期待に着目した研究である。はじめての実習を控えた学生は、それまで受けてきた授業とは異なり保育現場で過ごす保育実習に対して大きな不安を抱いている。一方で実習に対する学生の気持ちは不安だけで構成されるものではない。実際に子どもとかかわること、保育を実践的に学ぶこと、実習をとおして自らの保育職への適性を見極める機会となることなどを期待している。そうした不安と期待の入り混じる学生の心情を踏まえた上で、保育実習に向けた指導の在り方を模索する必要性について論じた。併せて2020年度前期においてコロナ禍における授業方法として取り入れられた遠隔授業が実習に向けた学びの中で学生にどのように受け止められていたのかという点についても自由記述の分析を通して明らかにした。 佐野友恵・大和晴行・鶴宏史・宇野里砂・小尾麻希子・久米裕紀子・中井光司・西本望・大槻伸子・白井三千代
12.「幼稚園教育要領」における領域「人間関係」の内容論－その歴史的変遷－	単	2021年3月	『教育学研究紀要』第66巻 686-691頁 中国四国教育学会	本研究の目的は、平成元年改訂「幼稚園教育要領」に導入された領域「人間関係」の「内容」に焦点を当て、その変遷を明らかにすることにある。その結果は次のとおりである。(1)導入当初は自我の芽生えと自己抑制、集団とのかかわりの中での自己実現を図るという改訂の基本方針を受け、葛藤やつまずきを体験することの意味とそこでの教師の役割が強調された、(2)次の改訂では、幼稚園から高等学校までの発達や学びの連続性を実現する観点から、その基礎となる資質・能力を育成するために、特に協同する経験に焦点が当てられた、(3)現行の要領では、発達や学びの連続性を実現する基礎として、「自立心」の育ちと深く関わる観点を織り込んだ「内容」へと遷り変わっていったことである。以上のことから、保育者養成校における授業改善の視点として、「自立心」の育ちと自我の育ち・自己抑制・協同する経験との関係性に着目した授業内容を構築することの必要性が示唆された。
13.保育者養成研究はカリキュラム論に関して何を明らかにしてきたか－システマティック・レビューによる分析－ （査読付）	共	2021年3月	『保育者養成教育研究』第5号 61-71頁 保育者養成教育学会	日本で保育士が国家資格化された2001年以降の保育者養成教育に関する研究論文に対してシステマティック・レビューを行い、その中から2019年6月時点の「保育者養成研究は、これまでの保育者養成教育学カリキュラム論に関してどのような研究知を明らかにしてきたか」を明確にすることを目的とした。その結果は次のとおりである。(1)カリキュラム論の研究が海外ジャーナルの主要な研究対象となっていない、(2)実践知を論文化した質的研究が中心であり、量的研究が行われていない、(3)学生の学修アウトプットに関する研究では、「間接評価」と「直接評価」によって得た学修アウトプットを利用している、(4)授業目標とアウトプットを関連付けて明らかにしているカリキュラム論に関する研究はほとんど存在しないことである。以上のことから、保育者養成校における授業改善の視点として、授業目標とアウトプットの関連性を保障する具体的な取組みが必要であることが導き出された。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				若山育代・若尾良徳・入江良英・後田紀子・小尾麻希子・桐川敦子・佐藤有香・新家智子・目良秋子 （JSPS科研費JP19K02580による助成を受けた研究）
14.戦後日本の幼稚園カリキュラムに関する研究の動向－日本保育学会年次大会における研究発表を中心に－	単	2020年3月	『教育学研究紀要』第65巻 393-398頁 中国四国教育学会	「保育要領」刊行から1964年改訂「幼稚園教育要領」刊行へと至る時期の日本保育学会年次大会における研究発表に基づいて、戦後日本の幼稚園カリキュラムに関する研究の動向を明らかにすることを目的とした。その結果、明らかとなったのは、(1)総合的なカリキュラムについて取り上げた研究は極めて少なく、多くは一つの保育内容に焦点を当てつつ、カリキュラムへの言及がなされたものであったこと、(2)「保育要領」の保育項目や「幼稚園教育要領」に示された６領域（保育内容）よりも狭義の活動や保育材を取り上げたものが多くを占めたこと、(3)単元を設けたカリキュラムの課題や単元活動と自由遊びとの関連性を問う研究が見受けられるようになったのは、「幼稚園教育要領」刊行以降であったことである。これらの知見は、保育実践の場において推進されたカリキュラム研究の特質を解明するための基礎研究となるものである。 （JSPS科研費JP19K02635による助成を受けた研究）
15.戦後教育改革期IFELの示唆した幼稚園カリキュラム開発 （査読付）	単	2020年3月	『教育学研究論集』第15号 49-57頁 武庫川女子大学大学院文学研究科教育学専攻	教育指導者を対象とした戦後最大規模の講習「教育指導者講習」（IFEL）の第５期・第６期に開催された幼稚園教育班・幼年教育班の講習内容の中から幼稚園のカリキュラムに関する内容に焦点を当て、IFELがわが国の幼稚園カリキュラムの開発にどのような示唆を与えたのかを明らかにすることを目的とした。IFELの示唆した点は、(1)カリキュラム開発の基礎となる子どもの発達のアウトラインとその発達的特徴に関する理解、(2)子どもの実際の姿に基づいた実証的・実践的な研究の実施、(3)幼稚園・保育所・小学校低学年の一貫した幼年教育カリキュラムの開発、(4)日本の子どもに必要な教育の目標の選定とその達成に向かう望ましい経験内容の解明、(5)子どもの生活に立脚した経験内容の組織と目的活動を中心とした一日の生活の構築にあった。この目的活動を中心とした生活は自由遊びを基調とした「保育要領」の趣旨と相違するものであった。 （JSPS科研費JP19K02635による助成を受けた研究）
16.継続的な保育観察に基づいた学生の学びとその可能性－「協同的な遊び」に対する捉え方の変容を中心に－	単	2019年8月	『関西教育学会年報』第43号 141-145頁 関西教育学会	教育学科3年生を対象とした「教育演習」において試みた授業実践研究である。保育実践を観察し、記録・討議・考察するという一連の学習活動を通して、受講学生がいかに保育に対する理解を深めていくのか、「協同的な遊び」に対する捉え方の変容に焦点を当てて明らかにした。(1)「協同的な遊び」が創出される前提となる幼児同士の共通の体験や感動体験、(2)そこでの保育のねらいや教師の願い、(3)幼児同士の応答的な関わりや対話、教師と幼児との対話、教師と幼児で共に遊びの環境を創り出していく様相への気付き等、遊びの創出に至るまでの幼児の経験や複雑な保育の様相を可視化させる授業の有効性を示した。
17.保育における施設設備のもつ可能性を切り拓いた「全国モデル幼稚園協議會」会員校の研究活動とその実践－1953年から1954年にかけての研究資料の検討－	単	2019年3月	『教育学研究紀要』第64巻 1-6頁 中国四国教育学会	1952年の「文部省建築モデル幼稚園」制度を受け創立された「全国モデル幼稚園協議會」会員校における研究活動及びその実践の特徴について、1953年から1954年にかけて作成された会員校の研究資料に基づいて検討することを目的とした。会員校における研究と実践の特徴は、設備のもつ意味を幼児が働きかける環境として捉え直した点にあった。その結果、「望ましい環境」の構成やその環境の構成を前提とした幼児に育みたい「望ましい経験」の解明に着手していくこととなった。本研究は、先行研究では十分に解明されるに至っていない、「保育要領」（1948)から「幼稚園教育要領」（1956）刊行へと至る時期の幼稚園教育の実際を紐解く上で示唆を与えるものである。
18.学校教育法制定後の千葉師範学校附属幼稚園における「新保育」の試み （査読付）	単	2018年12月	『保育学研究』第56巻第3号 58-69頁 日本保育学会	学校教育法制定後の1947年に構想・実践化されるに至った千葉師範学校附属幼稚園における「新保育」の特質を、その当時に作成された実践資料に基づいて明らかにした。本研究の意義は次の3点にある。(1)これまでの研究では解明されてはこなかった、学校教育法制定後に見られた保育実践の特質を現存資料に基づいて明らかにした、(2)学校教育法の幼稚園の目規定に示された「適当な環境」の趣旨について、当時の保育者がいかに受け止めたのか、同園の研究・

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				実践資料に基づいて解明した、(3)「誘導保育」の継承と発展という特質をもつ同園の「新保育」を事例として、戦前の実践からの継承・転換という連続的な視座から、先行研究で述べられてきた戦後日本の保育実践の特質を再考する余地があることを指摘した。
19.保育の連続性を踏まえた「幼児教育指導計画」の作成過程とその指導方法－教育学科3年生の授業実践－	単	2018年8月	『関西教育学会年報』第42号 151-155頁 関西教育学会	教育学科3年生を対象とした授業における指導計画の作成過程を事例とし、指導計画作成に係る効果的な学習過程とその指導方法について検討していくことを目的とした。有効な指導方法として、(1)指導計画立案に至るまでの幼児の生活を踏まえて、幼児の経験やそれに対応した援助の方向性について予測する学習過程の構築、(2)幼児一人一人の「志向性」に応えるという側面から、環境構成（教材を含む）や援助について考究する学習過程の構築、(3)保育の意図と幼児の実態とを重ね合わせながら活動や援助の方向性を見出せる学習過程の構築の3点が挙げられた。
20.戦後教育改革期における「全国モデル幼稚園協議會」の結成と初期の活動	単	2018年3月	『教育学研究紀要』第63巻 37-42頁 中国四国教育学会	1952年の「文部省建築モデル幼稚園」制度を受けて創立された「全国モデル幼稚園協議會」結成の背景及びその結成当初の活動について明らかにしていくことを目的とした。同協議會における活動は、会員校だけでなく、幼稚園とその設置者、文部省とが一体となって進めていたものであった。会員校における結成当初の研究活動には、(1)幼児の生活する「場」として、施設・設備のありようを検討していこうとするもの、(2)施設・設備のみならず、保育備品、保育用具類、材料、動植物の飼育・栽培に至って研究されたものがあり、幼児の豊かな生活経験が生み出される「環境」という視座から施設・設備の可能性を検討しつつ保育内容の充実を図っていこうとする研究の萌芽が明らかとなった。
21.戦後の徳島大学徳島師範学校附属幼稚園における「幼児の生活プラン」(1949)の特質 （査読付）	単	2017年11月	『教育学研究ジャーナル』第21号 33-41頁 中国四国教育学会	小学校以降の学校段階におけるカリキュラムの考え方を適用した幼稚園カリキュラムの創出とその拡大という、「保育要領」刊行後の動向が指摘されるなか、本研究では、「保育要領」刊行翌年の1949年に、徳島大学徳島師範学校附属幼稚園より出版された「幼児の生活プラン」を、当時に作成された資料に基づいて検討した。同プランは、「保育要領」の根本精神とも合致する「合自然性」の教育観を底流とし、また、同要領に表された指導観を「環境による教育」の趣旨において明らかにした保育の計画であった。幼稚園教育独自の立場から作成された幼稚園カリキュラムの実際とその特質を、カリキュラム編成の根本原理に及んで解明した点に、本研究の意義を見出すものである。
22.協同的な学びを育む保育の創造－伝え合いを支える教師の援助と環境構成－	共	2013年6月	『日本生活科・総合的学習教育学会第22回全国大会紀要』 93-115頁 日本生活科・総合的学習教育学会	幼児の協同的な学びと育ち、協同的な学びを育む環境構成及び教師の援助について、実践事例に基づいて検討した。幼児の協同的な学びと育ちについて、安心度・夢中度・人とのかかわり・イメージの共有・他者と共に遊びの目的創造・他者と共に遊びの目的追求の6つの視点から明らかにした。そこでの環境構成及び教師の援助ついては、幼児同士で試行錯誤する・考え合う・言葉で伝え合うプロセスの創出という、3つの視点から明らかにした。 日本生活科・総合的学習教育学会指定研究（明石市立大観幼稚園）（全23頁、第1章研究の概要、第2章研究の目的、第3章研究の仮説、第4章研究の方法93-97頁、第5章研究の内容2節実践事例2項5歳児の実践事例102-110頁、第6章研究のまとめ111-115頁執筆）
23.幼児教育における「協同的な学び」を推進する教師の援助－幼稚園5歳児クラスの事例にみる－ （査読付）	共	2012年3月	『同志社女子大学総合文化研究所紀要』第29巻 225-238頁 同志社女子大学総合文化研究所	幼稚園5歳児クラスの遊びの中で捉えられた幼児の学びをフレーベルとカッツの理論を援用した「学びのマトリックス」によって示し、「協同的な学び」がどのような体験であり、どのような幼児の学びによって構成されているか、解明した。協同な学びを育むに基盤には、幼児自身で探求し、創意工夫しながら遊びの目的を実現していくこと、忍耐強く試すこと、課題を認識し、乗り越えようとすること等、カッツの示す学びの範疇の一つ「性向」を育んでいくプロセスが重要であるとした。また、そうした幼児の自発性を尊重した保育の前提には、周到に準備された教師の働き掛けがあることを明示した。 埋橋玲子・小尾麻希子
24.仲間関係を深める戸外遊びにおける環境	単	2006年11月	『兵庫教育大学附属幼稚園研究紀	幼稚園3・4・5歳児クラスにおける戸外遊びの実践事例を分析した。幼児の仲間関係が深まる過程における環境構成と教師の援助につい

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
構成及び教師の援助			要』第18集 兵庫教育大学附属幼稚園編 8-16頁 （第2章実践事例及びその考察として掲載）	て、幼児が「自分の居場所や基地をもって遊ぶ」「自然を肌で感じながら遊ぶ」「五感を通して感じ、気付いて遊ぶ」「開放感を味わって遊ぶ」「なりきって遊ぶ」「全身を使ったルールのある遊び」「遊具や用具を使った集団遊び」の7つの視点から明らかにした。
25.幼児の生活を充実させる保育環境を考える－仲間関係を深める戸外遊びに焦点を当てて－	共	2006年11月	『兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要』第18集 兵庫教育大学附属幼稚園	「幼児の生活を充実させる保育環境を考える－仲間関係を深める戸外遊びに焦点を当てて－」をテーマとし、幼児の個の充実、仲間関係の深まり、その環境構成や教師の援助の在り方について実践事例を示しながら考察した。研究の概要1-8頁、3歳児の実践事例及び考察8-16頁、研究の成果と課題48-52頁を執筆し、各学年の幼児の発達に応じた環境構成及び教師の援助の在り方について示した。 平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園教員による共著
26.幼小連携教育の展望－交流実践・教師の連携・カリキュラムの接続－	単	2006年3月	『兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要』第17集Ⅰ 兵庫教育大学附属幼稚園編 19-21頁 （第2章研究の成果及び今後の展望として掲載）	兵庫教育大学附属幼稚園と同附属小学校間で研究、実践を行った幼小連携教育に基づき、幼小連携教育の展望及び幼小連携教育を視野に入れた附属幼稚園のカリキュラムの再編成について考察した。幼小連携教育の展望を、教師の連携、交流実践、カリキュラムの接続の3点から論じた。
27.幼小連携教育－豊かに「かかわり」「気付き」「表現」する子ども －	共	2006年3月	『兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要』第17集Ⅰ 兵庫教育大学附属幼稚園	兵庫教育大学附属幼稚園と同附属小学校間で研究、実践を行った幼小連携教育について述べた。めざす子ども像を、豊かに「かかわり」「気付き」「表現する」子どもとして行った幼小交流実践に基づいて、幼小連携教育の展望及び幼小連携教育を視野に入れた附属幼稚園のカリキュラムの再編成について考察した。第2章研究の成果及び今後の展望、第3節5歳児と1年生との交流実践13-18頁、第4節交流実践の展望19-21頁を執筆した。 平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園教員による共著
28.「好きな遊び」の環境構成と教師の援助の変化を読み取る視点	単	2006年3月	『兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要』第17集Ⅱ 兵庫教育大学附属幼稚園編69-77頁 （第3章研究のまとめとして掲載）	兵庫教育大学附属幼稚園の教育課程に示された「幼児の発達の姿」に即応して幼児の「充実感」について示した。さらに、環境構成と教師の援助の変化を読み取る視点を「幼児が出会う環境を創造する」「幼児の姿に応じて環境を再構成する」「幼児観・教材観・指導観を幼児の姿に即応して変容させる」の3つから示した。
29.一人一人の幼児が友達と共に「充実感」を味わって遊ぶための保育環境を考える－「うれしのタイム」の環境構成及び教師の援助の変化を読み取ることを通して－	共	2006年3月	『兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要』第17集Ⅱ 兵庫教育大学附属幼稚園	各学年の幼児が味わう充実感及び充実感に繋がる過程について、実践事例を示しながら考察した。「充実感を捉える視点」は、本園の教育課程に示された幼児の発達の姿に即応してまとめ、一覧表に示した。また、「充実感に繋がる過程」に関わる教師の役割を、幼児が「出会う」環境の創造、環境の再構成、教師の幼児観・教材観・指導感の変容という3つの視点から考察した。 第1章研究の概要32-35頁、第2章2節4歳児の保育実践より41-55頁、第3章研究のまとめ69-77頁、第4章研究の成果と課題81頁、研究の概要32-35頁、4歳児の実践事例、研究のまとめ69-77頁、研究の成果と課題81頁を執筆した。 平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園教員による共著
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.戦後初期の「明石附幼プラン」改革過程における保育者の専門的力量形成	単	2024年5月11日～12日	日本保育学会第77回大会（Web開催・主催校：神戸大学） 第77回大会発表要旨集【K-B-1-04】	本研究の概要は、前掲「学術論文」の欄に記載した『1950年代の神戸大学教育学部附属幼稚園における「明石附幼プラン」の改革過程－「一人一人を生かす」カリキュラム構成の検討を中心に－』と同様のため省略。 （JSPS科研費JP24K05853による助成を受けた研究）
2.カリキュラム・マネジメントに関する学	共	2023年12月23日	日本乳幼児教育・保育者養成学会第	カリキュラム・マネジメント(CM)未履修の学生がもつ、(1)CM に関する知識、(2)CMへの取組み意欲について実態把握することを目的と

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
生の知識と意欲の実態			4回研究大会（Web開催） 第4回研究大会発表要旨集39頁	生した。本研究からは、(1)「PDCAの循環サイクル」をイメージして解答している学生が多い傾向、(2)意義や重要性を理解しているものの、実際に行うことに対しては不安を感じている、意欲の得点を減じて自己評価していることが明らかとなった。この結果を踏まえ、授業においては、CMの概念説明を丁寧に行う工夫と、学生が「自分にもできそうだ」と手ごたえを感じられるように、CMの具体的な手続きを教授する工夫について提案した。 若山育代、後田紀子、小尾麻希子、桐川敦子、佐藤有香、深家智子、目良秋子、若尾良徳 （共同研究につき、担当部分抽出不可） （JSPS科研費JP19K02580による助成を受けた研究）
3.1940年代の明石女子師範学校附属幼稚園における保育カリキュラム改革	単	2022年8月24日	日本教育学会第81回大会（Web開催・主催校：広島大学） 第81回大会発表要旨集198-199頁	本研究は、及川平治主事時代に蓄積した昭和初期の研究・実践が、及川退職後の明石女子師範学校附属幼稚園のカリキュラムにいかに継承・改革されていったのか、当時に作成された研究・実践資料に基づいて明らかにすることを目的とした。その結果は次のとおりである。(1)及川主事のもとで推進した「生活単位」によるカリキュラム構成の趣旨を継承した年間・週・日の計画が作成された、(2)「水遊び」「海の幸、山の幸」等、近郊の自然環境を生かした「生活単位」による計画と実践が次々と生まれた、(3)ただし、その計画に記された「望ましき活動への変化」は、次第に戦時下の生活への適応という観点から記されるようになっていったことである。これらのことから、戦前の「生活単位」によるカリキュラム構成の趣旨は、及川退職後においても断絶せず、可能な範囲で継承されていたことが解明された。 （JSPS科研費JP19K02635による助成を受けた研究）
4.兵庫師範学校女子部附属幼稚園における戦後保育カリキュラムの開発過程	単	2021年8月25日	日本教育学会第80回大会（Web開催・主催校：筑波大学） 第80回大会発表要旨集105-106頁	本研究は、兵庫師範学校女子部附属幼稚園より、昭和23年7月に発表された「明石附幼プラン」が、どのような終戦後の取組を礎としていたのか、昭和22年度の「生活単元保育案」に着目して検討したものである。その結果は次のとおりである。(1)自然への親しみや科学的なものの見方・考え方・態度の芽生えを養う経験やその指導の方向性が保育案に見られるようになった、(2)単元「お玉杓子をとりに行きましょう」等、近郊の自然の中で遊ぶ子ども達の日々の体験やそこで遭遇する生活課題に着眼した生活単元が現れ始めた、(3)同園の子どもの生活の中で生まれた興味と生活課題に基づく単元（保育の中心テーマ）が、開発当初の「明石附幼プラン」に継承されていることである。「明石附幼プラン」を取り上げた先行研究では、コア・カリキュラムの概念から検討した批判的見解が示されているが、それに至るまでの同園の研究や実践との連続性を視野に入れて再検討される必要性があることを、本研究では示唆した。 （JSPS科研費JP19K02635による助成を受けた研究）
5.保育専攻学生のカリキュラム・マネジメントに関する知識－カリキュラム・マネジメントの講義後の評価－	共	2021年3月4日	日本保育者養成教育学会第5回研究大会（Web開催・主催校：大妻女子大学） 第5回研究大会研究発表抄録集27頁	保育専攻学生のカリキュラム・マネジメント(CM)に関する知識の有無とCMの具体的な手続きの算出の有無が一致するかどうかを明らかにすることを目的とした。本研究からは、CMに関する手続きの知識の不足が明らかとなり、授業改善に向けての今後の課題が残された。CMとは何かという定義に関する専門的知識と、それを実施する手続き的知識の両方を獲得できるように指導することの必要性が導き出されたため、授業改善の方策として、(1)CMの手続きに関する知識の不足を補う授業の工夫、(2)CMの意義や重要性の理解に基づく意欲の向上へと向かう授業の工夫、(3)それらを評価する基準を策定することの３点が示された。 若山育代、後田紀子、小尾麻希子、桐川敦子、佐藤有香、深家智子、目良秋子、若尾良徳 （共同研究につき、担当部分抽出不可） （JSPS科研費JP19K02580による助成を受けた研究）
6.1950年代のお茶の水女子大学附属幼稚園における保育計画と保育実践－『幼児の教育』誌の検討を中	単	2020年8月24日～28日	日本教育学会第79回大会（Web開催・主催校：神戸大学） 第79回大会発表要	本研究は、戦後のお茶の水女子大学附属幼稚園において作成された保育計画と保育実践について、『幼児の教育』誌に寄稿された同園教諭らの報告に基づいて明らかにすることを目的とした。その結果は次のとおりである。(1)同園の戦後保育の転機となったのは、同大学教授津守真と共に1954年より1年間にわたって毎週開催した「幼児

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
心にー			旨集112-113頁	教育研究会」であり、そこでは、「子どもを理解する」ことから見えてくる幼児の発達とそれを誘う保育のあり方が、実践的・実証的に検討された。(2)遊びの観察と記録に基づく実践研究を通して、幼児の育ちに繋がる興味を選び取り、「中心となる経験」として保育計画に位置づけた。(3)「中心となる経験」の実践では、遊びに興味をもった幼児から取り組んでいけるような配慮がなされる等、幼児の実態や意図に基づいて柔軟に展開された。実践記録を積むことを保育計画と実践の基礎としていた同園の取組は、戦後の保育実践研究の先駆事例として重要な歴史的意義をもつ。 （JSPS科研費JP19K02635による助成を受けた研究）
7.保育専攻学生のカリキュラム・マネジメントに対する理解と意欲ーカリキュラム・マネジメントの講義後の評価ー	共	2020年3月1日	日本保育者養成教育学会第4回研究大会（発表認定） 第4回研究大会研究発表抄録集65頁	4年制A大学の保育専攻学生のカリキュラム・マネジメント（CM）に関する知識とその活用方法への理解度を、量的な指標によって評価することを目的とした。その結果、保育専攻学生は、CMがどのようなものであるかという知識を記載できるものの、具体的にどのようにCMを実施していけばよいかという手立ては思いつきにくい傾向があることが明らかになった。 発表者：若山育代、後田紀子、小尾麻希子、桐川敦子、佐藤有香、深家智子、目良秋子、若尾良徳 （JSPS科研費JP19K02580による助成を受けた研究）
8.「保育内容総論」の授業内容と指導法に関する研究(1)ー「環境」と「遊び」に着目してー	単	2019年11月16日	関西教育学会第71回大会（於：関西学院大学） 第71回大会発表要旨集録55頁	「保育内容総論」の授業実践に基づいて、「幼稚園教育要領」に幼稚園教育の基本として示されている「環境を通して行う」こと及び遊びを通した総合的な指導に関する有効な授業内容と指導法を明らかにすることを目的とした。その結果、幼児教育の基本を理解する上で有効な学習内容として、実践映像において捉えた子どもの遊びを５領域や10の姿から分析することが挙げられた。
9.戦後教育改革期IFELの示唆した幼稚園カリキュラム開発ー幼稚園教育班・幼年教育班講習内容の検討を中心にー	単	2019年8月7日	日本教育学会第78回大会（於：学習院大学） 第78回大会発表要旨集147-148頁	戦後教育改革期における「教育指導者講習会」（IFEL）がどのような幼稚園カリキュラムの開発を目指したのか、第5期開催の幼稚園教育班・第6期開催の幼年教育班の講習内容に焦点を当てて明らにすることを目的とした。その結果、第5期では、お茶の水女子大学附属幼稚園における観察を通した調査研究に基づいて、幼児期の成長発達のアウトラインを明らかにすることを中心に、その成長発達を助長する一日の生活の流れについての検討が進められた。第6期では、第5期の発達研究を基礎に、幼児の経験内容を12項目より示すとともに、幼稚園と小学校低学年との接続だけでなく、幼稚園と保育所との一元化を含めた「幼年教育カリキュラム」開発への方向づけがなされた。 （JSPS科研費JP19K02635による助成を受けた研究）
10.戦後日本の幼稚園カリキュラム成立史に関する研究ー「望ましい経験」の選定を中心にー	単	2019年5月4日	日本保育学会第72回大会（於：大妻女子大学） 第72回大会発表要旨集309-310頁	1956年の千葉大学教育学部附属幼稚園において作成された「幼稚園教育要領に基づいた「絵画製作」の望ましい経験の基底」を取り上げ、その望ましい経験がどのような研究を経て選定されたのか、当時の資料に基づいて明らかにすることを目的とした。その結果、(1)教師の指導の方向性を打ち出した研究から脱却し、幼児の経験に主眼を置いて作成された、(2)「望ましい経験」の具体を幼児の実態調査を実施しつつ、各年齢の幼児の発達段階に応じて見出していった、(3)当時の研究者から意見が出されていた保育育内容の系統性・組織性というよりも、具体的指導目標（教師の指導の方向性）を問う研究が進められていた、(4)発達段階の分類と小学校学習指導要領各教科編の指導目標が参照されたことが明らかにされた。 （JSPS科研費JP19K02635による助成を受けた研究）
11.保育者養成課程の授業展開における課題と工夫（2）ー自由記述に見られるアクティブ・ラーニングー	共	2019年1月14日	平成30年度保育教諭養成課程研究会研究大会（於：国立オリンピック記念青少年センター） 保育者養成課程研究会発表要旨集	保育者養成校の教員を対象とした質問紙調査に基づき、授業の工夫や展開方法の実態について明らかにすることを目的とした。その結果、(1)一般的なアクティブ・ラーニング、(2)対話的学習、(3)体験活動、(4)保育実践事例の活用・提示、(5)授業内容理解の補完、(6)学びの枠組みの提示、(7)模擬保育、(8)他分野・他学年交流、(9)その他（時事・社会の動向を取り入れる等）の9つのカテゴリーが導き出された。 発表者：目良秋子、後田紀子、小尾麻希子、桐川敦子、佐藤有香、深家智子、若尾良徳、若山育代
12.保育者養成課程の授	共	2019年1月	平成30年度保育教	保育者養成校の教員を対象とした質問紙調査に基づき、授業を展開

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
業展開における課題と工夫（1）－自由記述に見られる「困っていること」－		14日	諭養成課程研究会研究大会（於：国立オリンピック記念青少年センター） 保育者養成課程研究会発表要旨集	する際の「困っていること」の実態を明らかにすることを目的とした。その結果、「困っていること」の実態として、(1)指導方法に関する課題、(2)学生の資質・能力に関する課題、(3)制度に関する課題、(4)養成校の環境、(5)大学内での連携、(6)実践の場との連携の6つのカテゴリーが導き出された。 発表者：桐川敦子、後田紀子、小尾麻希子、佐藤有香、深家智子、目良秋子、若尾良徳、若山育代
13.継続的な保育観察に基づいた学生の学びと学びの可能性－「協同的な遊び」に対する捉え方の変容を中心に－	単	2018年11月18日	関西教育学会第70回大会（於：関西福祉科学大学） 第70回大会発表要旨集録61頁	教育学科3年生を対象とした授業「教育演習」における実践研究である。保育実践を観察し、記録・討議・考察するという一連の学習活動を通して、受講学生がいかに保育に対する理解を深めていくのか、「協同的な遊び」に対する捉え方の変容に焦点を当てて考察した。(1)「協同的な遊び」が創出される前提となる幼児同士の共通の体験や感動体験、(2)そこでの保育のねらいや教師の願い、(3)幼児同士の応答的な関わりや対話、教師と幼児との対話、教師と幼児で共に遊びの環境を創り出していく様相への気付きなど、遊びの創出に至るまでの幼児の経験や複雑な保育の様相を可視化させ得る授業の有効性を示した。
14.戦後日本の幼稚園において受容された保育における生活の概念－東京都公立幼稚園の実践を手がかりに－	単	2018年5月12日	日本保育学会第71回大会（於：宮城学院女子大学） 第71回大会発表要旨集278頁	戦後日本の幼稚園において作成されたカリキュラムの特質を捉える手がかりとして、東京都公立幼稚園の研究の動向やカリキュラムなどの実践的資料に表された「生活」の概念について検討した。その結果、(1)保育内容は幼児を取り巻く郷土や家庭生活から取り上げること、(2)生活の記録は幼児一人一人の興味や関心、理解、表現等の観点から示すこと、(3)幼児一人一人の「個」が生きる保育形態については「分團保育」の側面から検討していくこと、これら3つの側面から、幼児の「生活」に立脚したカリキュラムの作成に着手されたことが明らかとなった。
15.保育内容「環境」を核とした幼児教育指導計画の作成及び模擬保育の効果－教育学科3年生の授業「幼児教育実践演習」の試み－	単	2018年3月4日	日本保育者養成教育学会第2回研究大会（於：共立女子大学） 第2回研究大会発表要旨集78頁	こま遊びやお正月をトピックとしたごっこ遊びなど、保育内容「環境」を核とした指導計画の作成及び模擬保育の効果について、学生による振り返り記録と討議内容に基づいて明らかにすることを目的とした。本授業の特質は、長期の指導計画に掲げた「ねらい及び内容」を日の指導計画へと具体化する過程を位置づけた点にある。その結果、指導計画作成の意義として、(1)日の指導計画へと位置づけられる幼児の経験内容や活動を連続的な「幼児の生活」を踏まえて考えた点、(2)幼児自身で学びを深いものとしていく視点から立案、(3)幼児の活動の根本にある保育のねらいに遡って立案したことの3点が挙げられた。模擬保育の効果として、(1)保育の意図の明確化、(2)保育の意図と幼児の実態（学生の状況）を重ね合わせながら実践することへの気づきの2点が挙げられた。
16.保育の連続性を踏まえた「幼児教育指導計画」の作成過程とその指導方法－教育学科3年生の授業実践－	単	2017年11月11日	関西教育学会第69回大会（於：大阪市立大学） 第69回大会発表要旨集録65頁	教育学科3年生を対象とした授業における指導計画の作成過程を事例とし、「幼児教育指導計画」作成に係る効果的な学習過程とその指導方法について検討していくことを目的とした。有効な指導方法として明らかとなったのは、(1)指導計画立案に至るまでの幼児の生活を踏まえて、幼児の経験やそれに対応した援助の方向性などについて予測する学習過程の構築、(2)幼児一人一人の「志向性」に応えるという側面から、環境構成（教材を含む）や援助について考究していく学習過程の構築、(3)保育の意図と幼児の実態とを重ね合わせながら活動や援助の方向性を見出せる学習過程の構築の3点である。
17.戦後日本の師範学校附属幼稚園において推進された新しい保育の特質－保育計画論に焦点を当てて－	単	2017年6月24日	日本カリキュラム学会第28回大会（於：岡山大学） 第28回大会発表要旨集録67-68頁	1947年から1949年にかけて作成された、千葉大学千葉師範学校附属幼稚園及び徳島大学徳島師範学校附属幼稚園の実践的資料に基づいて検討した。それら資料の中に示された保育計画論において、「環境」という視座から戦後保育の方向性が説かれていることを明らかにした。
18.千葉大学教育学部附属幼稚園における保育計画論の特質－「保育要領」刊行後の幼稚園資料に基づいて－	単	2017年5月20日	日本保育学会第70回大会（於：川崎医療福祉大学） 第70回大会発表要旨集261頁	千葉大学教育学部附属幼稚園において作成された昭和25年度・26年度の幼稚園資料に基づき、同園保育計画論の特質を明らかにすることを目的とした。25年度の「保育案」では、題目（題材）の選択に主眼が置かれた。26年度の「指導案」では、幼児の発達（主として社会性・ことば）に主眼を置いた目標の具体化が図られた。筆者のこれまでの研究上に提示した昭和22年度の同園「新保育」の趣旨、すなわち、環境による教育の趣旨を継承しつつ、教材観の明示及び

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
19.“Starting Strong Ⅲ”が示唆する幼児教育カリキュラムにおける「学びの領域」の検討－新しい能力観及び「幼稚園教育要領」との比較を通して－	単	2015年7月5日	日本カリキュラム学会第26回大会（於：昭和女子大学） 第26回大会発表要旨集録147-148頁	目標の構造化を図った点に、その時代的特質を見出すものである。OECDの調査報告書“Starting Strong Ⅲ”において示唆された幼児教育カリキュラムにおける「学びの領域」と日本の「幼稚園教育要領」に示されている5領域とを比較検討した。前者は、「探究」「遊び」「子どもの相互作用」の3つの側面からカリキュラムに統合される領域が示唆され、探究の領域では身に付けていくことが難しいと捉えられた、いわゆる対人関係のスキルを獲得していく手段として、「遊び」と「子どもの相互作用」を促進する領域横断的な学習を位置づけていることを明らかにした。この点は、豊かな遊びと子どもの相互作用、協同を基盤として、各領域に掲げたねらいを達成していくことを根本に据えた「幼稚園教育要領」とは相違するものであること、さらには、前者が個人の学びをいかに育んでいくのかに焦点を当てているのに対し、後者は個と集団の育ちの関係性を重視した学びに焦点を当てていることを明らかにした。
20.倉橋惣三の教育思想と実践とをつなぐ保姆の教育観	単	2015年5月	日本保育学会第68回大会（於：椙山女学園大学） 第68回大会発表抄録集発表ID717	倉橋惣三の保育論を真に解釈し、実践したと評される人物、岡山県師範学校附属幼稚園主任保姆岡政の教育観及び明治後期から昭和初期における同附属幼稚園の実践について分析した。岡の教育観は、倉橋の提唱した「誘導保育」論の二つの側面、すなわち幼児の自発性の尊重と目的活動への誘導の両側面に関する知識と理解に基づいて形成されているものであることを明らかにした。
21.仲間との「つながり」を育む保育プロセス－ごっこ遊びの生成プロセスを通して－	単	2014年5月	日本保育学会第67回大会（於：大阪総合保育大学） 第67回大会発表要旨集198頁	幼稚園4歳児クラスにおける幼児のごっこ遊びの生成プロセスを分析することから、幼児が仲間とつながる要因と保育プロセスについて考察した。仲間とつながる要因として、「保育者」「イメージ」「言葉」「動き」があげられることを実践記録より分析し、特に、保育者は「動き」を伴った幼児の表現に着目し、幼児同士をつなぐ役割を担っていることを明らかにした。
22.協同的な学びを育む保育プロセスⅡ－カッツの理論を援用して－	単	2013年5月	日本保育学会第66回大会（於：中村学園大学） 第66回大会発表要旨集190頁	先行研究で得られたデータに加え、より長期にわたって保育記録を収集し、幼児の協同的な学びの質的変化を捉えた。協同的な学びの質的変化は、共有する遊びの目的が創り出される、目的達成に向かった知識や技能を伝え合う、遊びのイメージや遊び方を共有する、課題を共有する、課題を解決するプロセス変化として捉えられることを明らかにした。
23.協同的な学びを育む保育プロセスに関する考察－カッツの理論を援用した保育記録の分析を通して－	単	2012年12月	日本乳幼児教育学会第22回大会（於：武庫川女子大学） 第22回大会研究発表論文集204-205頁	幼稚園５歳児クラスの幼児の遊びに着目し、遊びの中で捉えられた幼児の学びをカッツの示す４つの学びの範疇「知識」「技能」「感情」「性向」から分析し、それらの学びがどのような幼児の協同する姿、協同的な学びと繋がっていくのか、また、教師の環境構成、援助とどのように繋がっているのかを探った。協同的な学びを育む保育プロセスには、「感情」に下支えされた「知識」「技能」の習得、「性向」の高まり等、幼児の学びの様相に応じた教師の働き掛けが重要であること、また、幼児が他者の学びについて知ったり、関係をつくったりする体験の場が重要であることを明らかにした。
24.保育の質の向上－「風通しを良くする」観点から－保育現場のクリティカル・シンキング（批判的思考）－	共	2012年5月	日本保育学会第65回大会自主シンポジウム（於：東京家政大学） 第65回大会発表要旨集140頁	実践現場において、保育の質の向上を図るには、研修や保育評価の場を園の内部に留めるのではなく、何らかの方法で外部との交流をもつことの重要性について提案した。教師間で共有できる「評価の規準」として、後掲の「チェック・システム1・2・3」をの活用し、子どもの育ちや課題、それらに応じた保育構築について考え合う研修の重要性について発表した。 発表者：埋橋玲子、小尾麻希子、武藤朱美、山本真理子
25.保育者の職能向上に繋がる研修Ⅰ－実践知の可視化を求めて－	共	2012年5月	日本保育学会第65回大会（於：東京家政大学） 第65回大会発表要旨集752頁	保育者の職能向上に繋がる自主研修会を求め、自主研究会で実践を語り合うこと及びデューイの教育理論を援用しなら考察することを試みた。筆者は、デューイの述べる「子どもの中にある衝動」に着目し、衝動的表現を意図的表現に高めていく保育の試みについて自主研修会で語り、研修を進めた経緯について発表した。 発表者：多田琴子、小尾麻希子、小林みどり、坂根早織、大西雅裕
26.子どもの育ちがみえる保育評価の試みⅢ－ごっこ遊びへの参画スタイルの変容に着目して－	共	2012年5月	日本保育学会第65回大会（於：東京家政大学） 第65回大会発表要旨集184頁	先行研究で用いた「子どものごっこ遊びへの参画スタイルに関するチェック・システム」「教師の関わりに関するチェック・システム」に加え、幼児の姿を12の視点から分析した「集団の育ちに関するチェック・システム」を開発した。その結果、これら3つのチェック・システムを活用することにより、「子どもの遊びを見る視点の

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				明確化－保育を構築する視点の明確化－集団の育ちによって転換していく保育のねらい」というサイクルの中で教師の具体的な指導計画作成及び働き掛けが生み出されることを明らかにした。 発表者：小尾麻希子、埋橋玲子
27.園内研修または自己評価のオリジナリティを求めて	共	2011年12月	日本乳幼児教育学会第21回大会ラウンド・テーブル（於：東京成徳大学） 第21回大会研究発表論文集40-41頁	保育の質の向上に繋がるオリジナルな園内研修や自己評価について協議した。筆者は、保育現場において継続しやすい保育評価として、前掲の「チェック・システム1・2・3」を活用した自園の取組を紹介した。 発表者：埋橋玲子、小尾麻希子、安達譲、島村和宏、丸山和彦
28.協同的な学びを育む保育の試みⅠ－5歳児の遊びを通して－	共	2011年12月	日本乳幼児教育学会第21回大会（於：東京成徳大学） 第21回大会研究発表論文集144-145頁	幼稚園5歳児の遊びを観察し、実践記録を分析し、協同的な学びを育む保育プロセスについて「幼児同士で遊びを創り出すプロセス」「環境が創造されるプロセス」「教師の働き掛けが行われるプロセス」の3点から考察した。その結果、幼児の姿、教師の環境構成、援助は「遊びが始まる時」「遊びが展開していく時」「遊びが変化していく時」「変化した遊びを継続していく時といった4つのプロセスに応じて変化していることを見出し、幼児の遊びの中の学びに応じて、保育のねらい、環境構成、援助を転換していく教師の専門的な役割について言及した。 発表者：小尾麻希子、多田琴子
29.子どもの育ちがみえる保育評価の試みⅡ－ごっこ遊びへの参画スタイルの変容に着目して－	共	2011年5月	日本保育学会第64回大会（於：玉川大学） 第64回大会発表要旨集13頁	先行研究で用いた「子どものごっこ遊びへの参画スタイルに関するチェック・システム」に加え、教師の関わりを37の視点から分析した「教師の関わりに関するチェック・システム」を開発した。これら2つのチェック・システムを活用することにより、保育の方向性や意図が整理され、子どもの育ちに応じた教師の関わりについて見直す視点が得られたことに言及した。 発表者：小尾麻希子、埋橋玲子
30.子どもの育ちがみえる保育評価の試み－ごっこ遊びへの参画スタイルの変容に着目して－	共	2010年5月	日本保育学会第63回大会（於：松山東雲女子大学） 第63回大会発表要旨集64頁	幼児のごっこ遊びへの参画スタイルに着目し、保育実践を保育の「構造評価」「プロセス評価」「アウトカム評価」の3つの保育評価方法を用いて分析した。プロセス評価で用いる「子どものごっこ遊びへの参画スタイルに関するチェック・システム」を創出し、幼児の姿を16の視点から分析した。オリジナルのチェック・システムを活用して評価することにより、子どもの育つ方向が見えやすくなり、子ども一人一人に必要な教師の関わりについて考える視点が構築されると結論づけた。 発表者：小尾麻希子、埋橋玲子
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.武庫川女子大学附属幼稚園研究紀要第3集『令和6年度 保育実践集』	共	2025年3月	武庫川女子大学附属幼稚園	武庫川女子大学附属幼稚園教員と筆者との共同研究により作成した教育課程に基づく保育実践事例集。 金光文代、塩井敬子、西村幸子、藤川雄太、豊田恭子、浅川遙、川村美悠、原田愛夕、廣崎有美、谷田奈央実、大内千帆、小尾麻希子（全23頁）
2.FD研修会報告：保育実践の場との地域連携－保育実践の質の確保・向上に向けた共同研究を中心に－	単	2025年3月	『教育学研究論集』第20号 武庫川女子大学教育学部　97-98頁	2024年9月に教育学科FD研修会で報告した保育実践の場との地域連携報告。保育実践の場との地域連携の試みとして、市立保育所との共同研究・保育者養成に係る連携について報告した。
3.武庫川女子大学附属幼稚園研究紀要第2集『令和5年度 教育課程・指導計画』	共	2024年3月	武庫川女子大学附属幼稚園	武庫川女子大学附属幼稚園教員と筆者との共同研究により作成した教育課程・指導計画集。日々の実践に基づくカリキュラム・マネジメントを通して得た知見から、今回の研究では、特に、(1)言葉による伝え合い、(2)協同する経験、(3)自然との触れ合い、(4)ICTの活用の観点から、大幅な改訂を行った。金光文代、廣崎有美、塩井敬子、西村幸子、藤川雄太、豊田恭子、浅川遙、川村美悠、谷田奈央実、濵村真由、小尾麻希子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
4.神戸市立保育所保育士会研究紀要「保育の社会化にむけて－保育の営みをいかに社会に発信するか－」	共	2023年6月	神戸市立保育所保育士会	（全23頁） 神戸市立保育所保育士会において編集され、神戸市保育園連盟主催「神戸研究集会」において配布された研究紀要。子どもの育ちの可視化・共有化に光を当てて取り組んだ実践事例・研究の成果と課題等を収録したもの。筆者は、この研究推進の中心的な役割を担うテーマ委員会講師として、研究紀要編集への指導助言を行うとともに、「講師総評」を執筆した。 令和4年度テーマ委員会（楠田久美子、川端眞由美、福留美由紀、脇本志紀子、田近恭子、森下亜来、西田ナツ子、福田裕美、米田百星）、小尾麻希子 （全26頁，研究紀要編集への指導助言、「講師総評」（25頁）執筆）
5.武庫川女子大学附属幼稚園研究紀要第1集『平成30年度 教育課程・指導計画』	共	2018年3月	武庫川女子大学附属幼稚園	武庫川女子大学附属幼稚園教員と筆者との共同研究において作成した教育課程・指導計画集。平成29年3月告示「幼稚園教育要領」の趣旨を踏まえ、「幼稚園教育において育みたい資質・能力」の観点から「ねらい及び内容」等を示した。 大江嘉津子、廣崎有美、塩井敬子、荒牧幸子、隈部磨利依、若山飛鳥、西森遙、小尾麻希子 （全25頁）
６．研究費の取得状況				
1.1950年代における幼稚園カリキュラムの発展過程と保育者の力量形成に関する実証的研究	単	2024年4月～2029年3月	日本学術振興会 科学研究費助成事業基盤研究（C）	研究代表者：小尾麻希子 1950年代における国立大学附属幼稚園のカリキュラムの発展過程と、そのカリキュラム改革過程でどのような保育者の専門的力量が形成されていったのかを、当時に作成された研究・実践資料に基づいて実証的に示すことを目的とした研究である。
2.カリキュラム・マネジメントに関する保育専攻学生の専門的技術と意欲的態度の育成	共	2019年4月～2025年3月	日本学術振興会 科学研究費助成事業基盤研究（C）	研究代表者：若山育代 研究分担者：入江良英、後田紀子、小尾麻希子、桐川敦子、佐藤有香、新家智子、目良秋子、若尾良徳 保育者養成校において、学生にカリキュラム・マネジメントの専門的技術を獲得させるシラバスを作成することと、そのシラバスに基づく授業によって、学生のカリキュラム・マネジメントに関する専門的技術と実施への意欲的態度を育成することを実証的に示すことを目的とした研究である。
3.戦後日本の幼稚園カリキュラム成立史に関する実証研究－国立大学附属幼稚園を中心に－	単	2019年4月～2024年3月	日本学術振興会 科学研究費助成事業基盤研究（C）	研究代表者：小尾麻希子 昭和20年代の国立大学附属幼稚園において作成されたカリキュラムの特質と、そのカリキュラムがどのような研究活動上に開発・改訂されたのかを、当時に作成された研究・実践資料に基づいて実証的に示すことを目的とした研究である。
4.学校教育法制定後の千葉師範学校附属幼稚園における「新保育」の試み	単	2018年度	2018年度 武庫川女子大学論文投稿助成	日本保育学会誌『保育学研究』第56巻3号掲載論文

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2025年4月～現在	美術科教育学会会員（乳・幼児造形研究部会所属）
2.2023年4月～現在	日本保育文化学会会員
3.2017年9月～現在	日本保育者養成教育学会会員
4.2017年4月～現在	日本乳幼児教育・保育者養成学会会員
5.2016年1月～現在	幼児教育史学会会員
6.2014年4月～現在	日本教育学会会員
7.2014年4月～現在	国際幼児教育学会会員
8.2010年4月～現在	日本乳幼児教育学会会員
9.2000年4月～現在	日本保育学会会員